

企業家の足跡から大阪の産業発展のプロセスを見る！

# 大阪大学連携講座「大阪の企業家群像」

主催：大阪商工会議所大阪企業家ミュージアム  
協力：大阪大学大学院経済学研究科

大阪企業家ミュージアムでは大阪大学大学院のご協力を得て、大阪で活躍した企業家についてより深く学ぶ講座を 2009 年より毎秋に開講しています。明治以降、大阪で活躍した企業家の高い志と先見性、創意工夫が、いかなる産業を生み出し、大阪の発展に結びついていったのか。同大学院で教鞭を執る3人の先生をお招きし、それぞれの切り口から大いに語っていただきます。

「新時代を担う企業家を目指す」「大阪を深掘りし、一味違った大阪の語り部を目指す」「今後の進むべき方向を考える」方々必見です。大阪検定対策にも、是非、ご活用ください。

## ◆◆2012 年度の講座概要◆◆◆

日 時：第1回 10月20日(土) 10:00 ~ 12:00  
第2回 10月24日(水) 18:00 ~ 20:00  
第3回 11月17日(土) 10:00 ~ 12:00

いずれも時間は 30 分の質疑応答を含みます。

※ 講義の内容は、裏面の◆テーマと聴きどころ◆をご覧ください。

場 所：大阪企業家ミュージアム

(大阪市中央区本町 1-4-5 大阪産業創造館 B1F)

受講料：500 円/回 (お一人様・税込、大阪企業家ミュージアム入館料含む)

※当日、受付にて申し受けます。

申 込：「大阪大学連携講座受講希望」と明記の上、受講者の「氏名」「受講希望日」「連絡先(メールアドレスか、電話番号)」をご記入の上、ファックス(06-6264-6011)、もしくはメール([museum@osaka.cci.or.jp](mailto:museum@osaka.cci.or.jp))にてお申し込みください。

※受付は各回とも先着 40 人まで。受講票は発行しません。満席の場合のみ当方よりご連絡いたします。

問合せ：大阪商工会議所人材開発部 大阪企業家ミュージアム (宮城)

TEL：06-4964-7601 / FAX：06-6264-6011

E-Mail：[museum@osaka.cci.or.jp](mailto:museum@osaka.cci.or.jp)



※ お申込みの際、ご記入いただいた個人情報は、本講座の運営に用いるほか、大阪商工会議所、大阪企業家ミュージアム、大阪大学からの連絡・情報提供(Eメールでの事業案内を含む)に利用するのをはじめ、講師には参加者名簿としてお渡します。

## ◆テーマと聴きどころ◆

○第1回 10月20日(土) 10:00~12:00

### 「吉本せいと『笑い』の事業化」

大阪大学大学院経済学研究科 教授 廣田 誠 先生

【講師略歴】和歌山大学経済学部卒。2008年より大阪大学大学院経済学研究科教授。

【聴きどころ】吉本興業の創業に多大なる貢献をなし、またわが国における女性企業家の先駆けでもあった吉本せいについて、彼女が活躍した時代のわが国ならびに大阪の社会と経済、そして演芸界の状況を明らかにした上で、彼女がいかなる創意と工夫を以てわが国で初めて「笑い」を事業化し、またそれが戦後の吉本興業へどのようにして継承されていったかをお話しします。

【キーワード】吉本せい、吉本泰三、林正之助、林 弘高、桂春団治、岡田政次郎

○第2回 10月24日(水) 18:00~20:00

### 「泉州における繊維産業の盛衰—『東洋のマンチェスター』の周辺」

大阪大学大学院経済学研究科 教授 阿部 武司 先生

【講師略歴】東京大学経済学部卒。1994年より大阪大学教授。現在、経営史学会会長も務める。

【聴きどころ】大阪府南部の泉州では江戸時代以来、綿織物業が展開していたが、明治期以降同地は先進綿織物産地の河内を凌ぎつつ、綿紡織業に特化していった。明治末期には力織機を備えた工場の建設が相次ぎ、さらに第一次世界大戦後にはとくに泉南で、従来の内地向け小幅織物に代わる輸出向け広幅織物の量産が進み、その過程で帯谷商店のような大規模機業家の成長がみられた。泉州は、寺田財閥による近代的紡績業の展開でも注目される。

【キーワード】泉州、織物業、紡績業、帯谷商店、寺田財閥、岸和田紡績

○第3回 11月17日(土) 10:00~12:00

### 「戦前大阪の機械工業と早川徳次の革新」

大阪大学大学院経済学研究科 教授 沢井 実 先生

【講師略歴】国際基督教大学教養学部卒。1998年より大阪大学教授。

【聴きどころ】繊維産業だけでなく、機械・金属工業も、戦前に日本最大の工業生産額を誇った大阪を代表する重要産業の一つであった。戦前大阪の機械工業のなかでは造船業、鉄道車両工業、紡織機工業などの比重が高かったが、本講義では戦前におけるこうした大阪機械工業の発展プロセスの特徴を考えると同時に、戦間期の新興産業である電気機械工業を取り上げ、そのなかで早川徳次の行った経営革新、技術革新について検討する。

【キーワード】井上好一、科学的管理法、機械工業、産業集積、流れ作業方式、早川徳次

★当日、特別展示「シャープ100年 創業者・早川徳次～危機を乗り越えつづけた企業家」開催中